



三十四





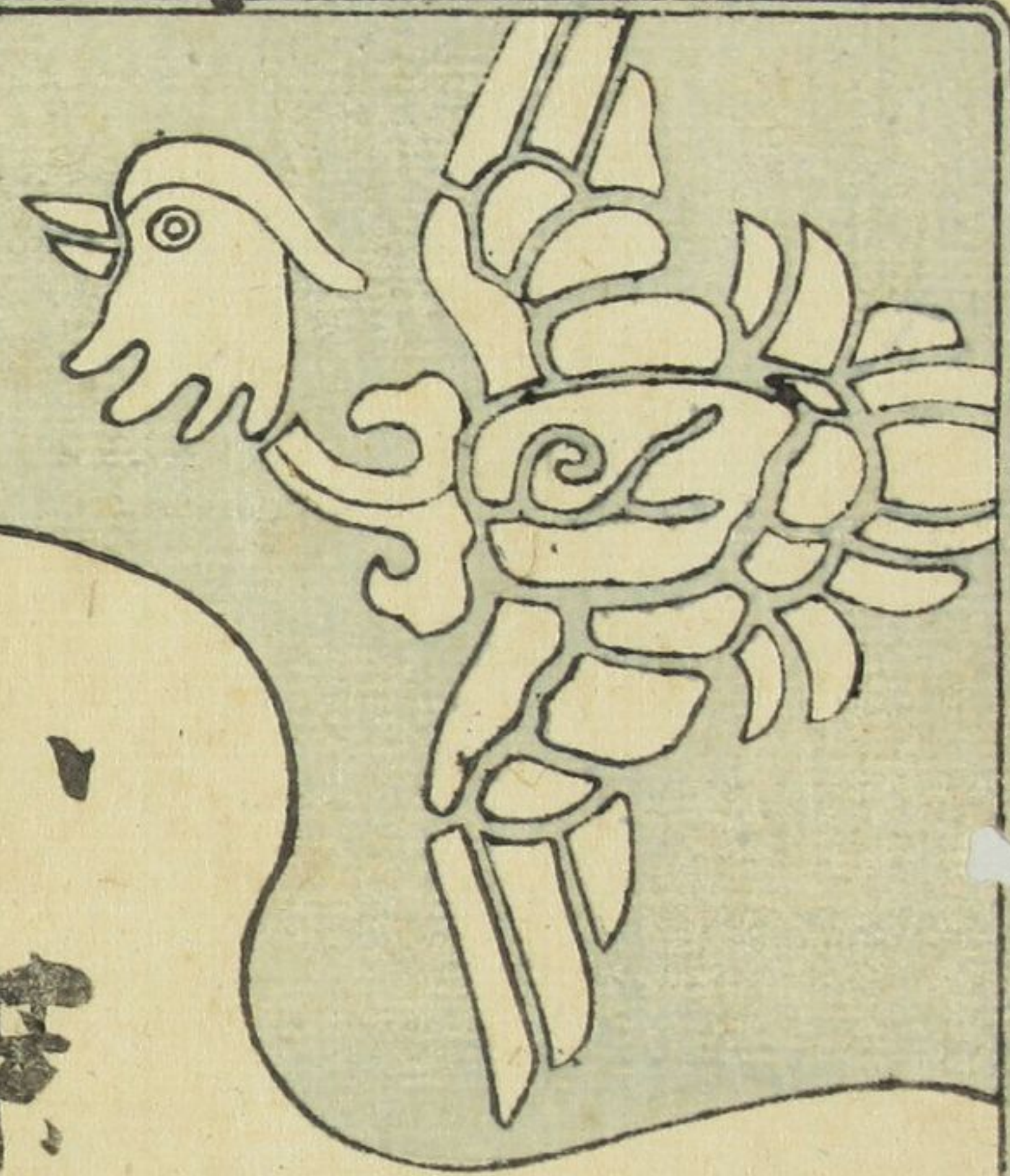
花街(飛)ゆく如(駕)も三輪車の往(返)と變(ハ)便(士)さんの艶(存)
 小郵便の神速(カ)る小不知(度)婆(私)房(銀)を日(歩)に廻(せ)む
 疎(忽)娼(妓)刺(半)の鐘(リ)戀(別)を恨(む)幫(間)席(亭)小滑(草)意
 盡(ハ)歌(妓)戸(籍)を脱(く)素(人)と變(ハ)ど(吁)流(行)の移(や)西(洋)に
 家(造)不(志)く(信)と毫(毫)潤(色)を筑(紫)琴(ひ)け過(來)は實(情)と
 變(ル)世界(の)筋(小)多(に)有(人)もん(の)番(頭)雛(妓)鹿(菜)の芋(代)
 秘(居)屁(の)如(き)文(を)著(ら)マ(ヤ)馬(鹿)ら(し)う(ら)ん(を)と序(を)

明治七年甲戌仲秋稿成
 八年乙亥孟春新版

弄月亭綾彦記



卷之十四



小標巻

移(ハ)便(士)さん
 固(良)書





菊王妻
胡蝶前

無名
瓢箪荷化身

新王丸

卷之十四



不助太郎 （茶）
ありこれ （肥）

まのうき
こきふせて
まのうき
まのうき
まのうき
まのうき
まのうき
まのうき
まのうき
まのうき

つぎ
そのこちん馬場の
くちとどり姓を
のびしあはれ
お色どろすの
幕府の
くひげをひきて
そのおのこ
あやしぬひそ
うりていち
ろをかくさ
やあはれ
よくこま
とある
よろ
まのうき
まのうき
まのうき
まのうき
まのうき
まのうき



二

二
四
二

一

かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの



かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの

かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの

かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの

かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの

五

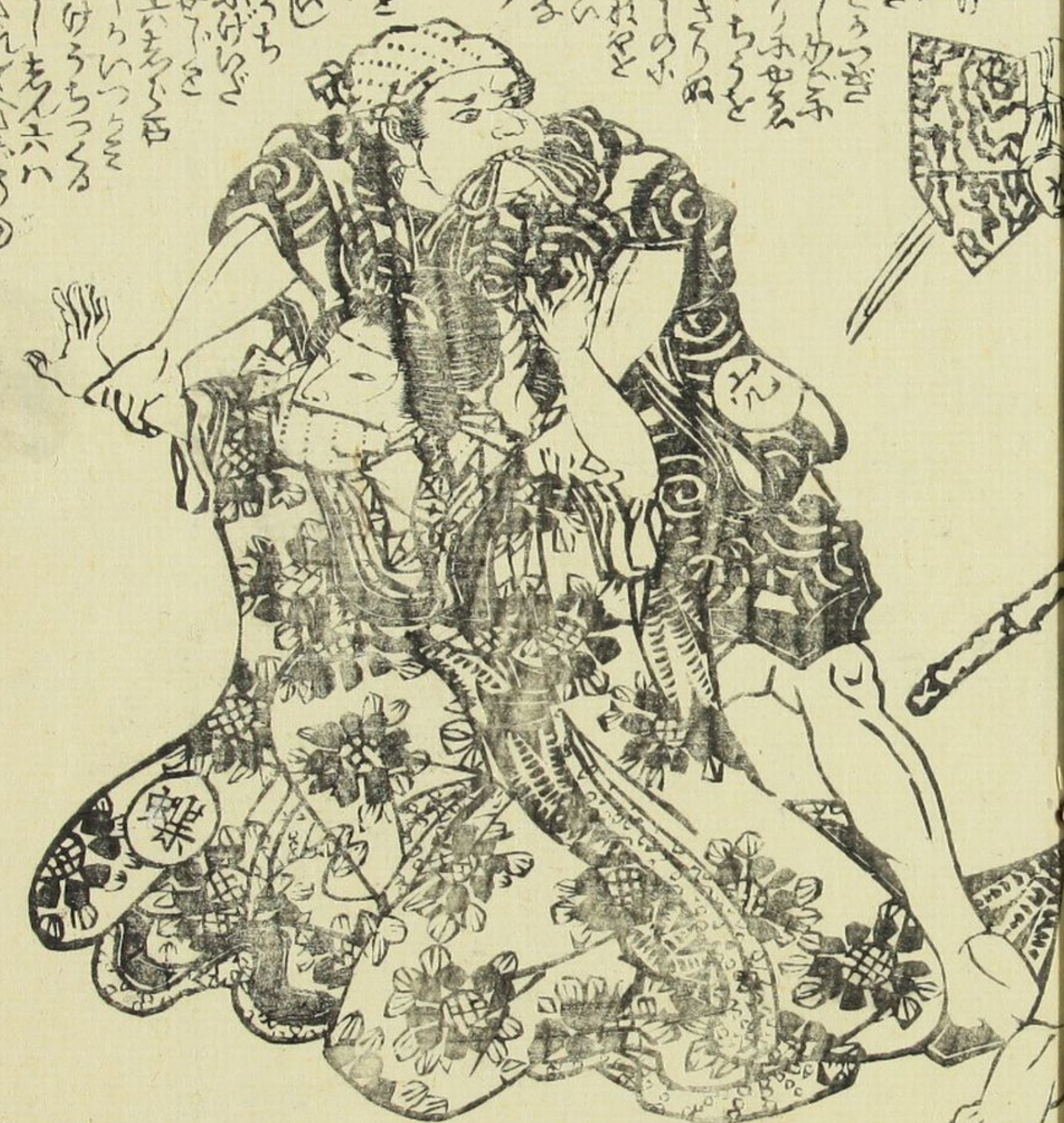
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの

かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの
かひの

此の物語は、昔の物語に
 似て、今もまた、人々の
 心を動かす、素晴らしい
 物語である。この物語は、
 昔の物語に似て、今も
 また、人々の心を動かす、
 素晴らしい物語である。



この物語は、昔の物語に
 似て、今もまた、人々の
 心を動かす、素晴らしい
 物語である。この物語は、
 昔の物語に似て、今も
 また、人々の心を動かす、
 素晴らしい物語である。



この物語は、昔の物語に
 似て、今もまた、人々の
 心を動かす、素晴らしい
 物語である。この物語は、
 昔の物語に似て、今も
 また、人々の心を動かす、
 素晴らしい物語である。



ころけとあ
 まがらうとあ
 あれいあ
 こりちけあ
 こりちけあ
 そのまふけつ六
 ちんちんちんちん

ア

いまあひ
 まんで
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん
 ちんちん



巫かのけつ六が
 くりきりきり
 くりきりきり
 くりきりきり
 くりきりきり
 くりきりきり

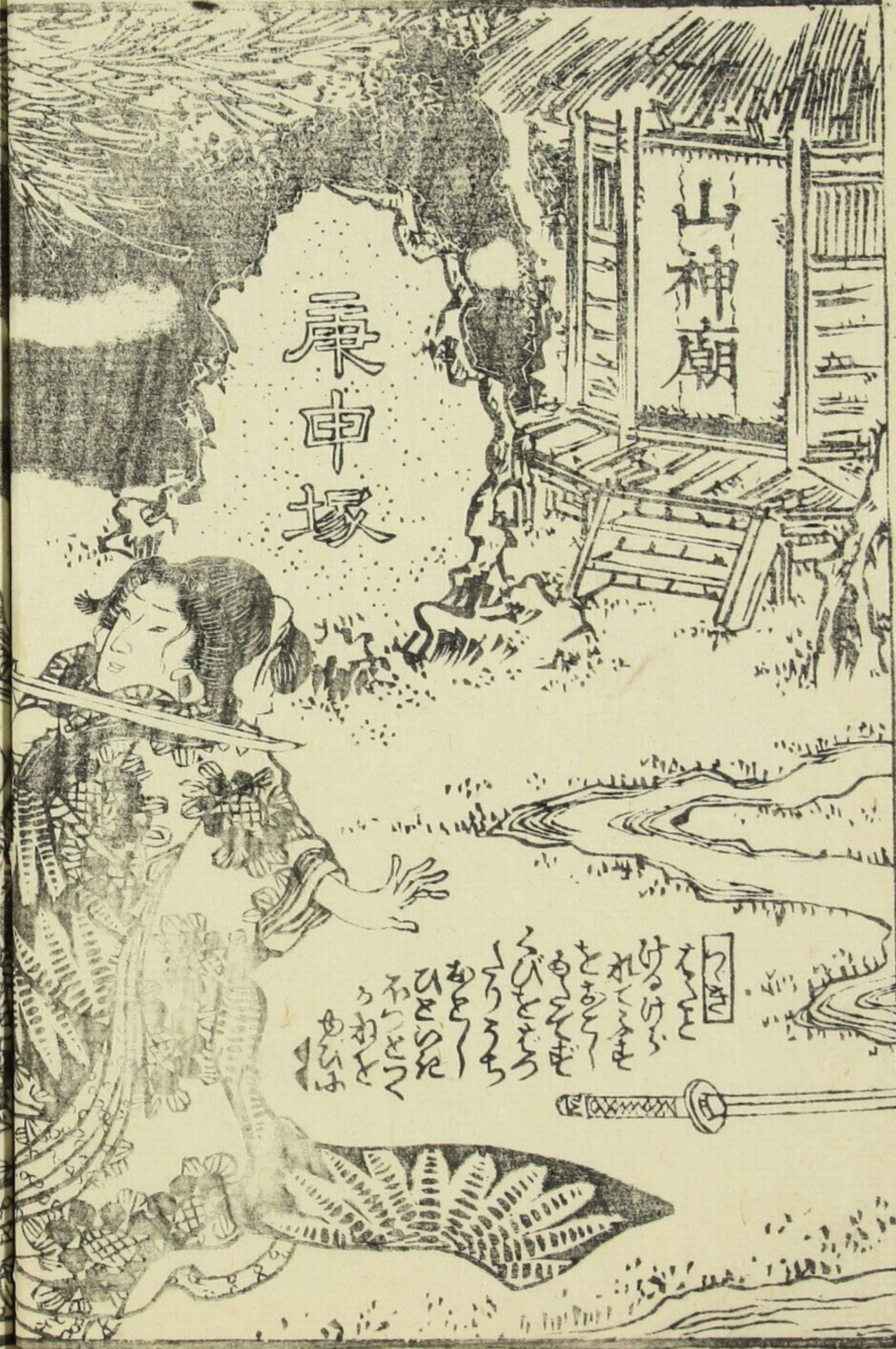
づきまきあ
 てあてあてあ
 てあてあてあ
 てあてあてあ
 てあてあてあ
 てあてあてあ



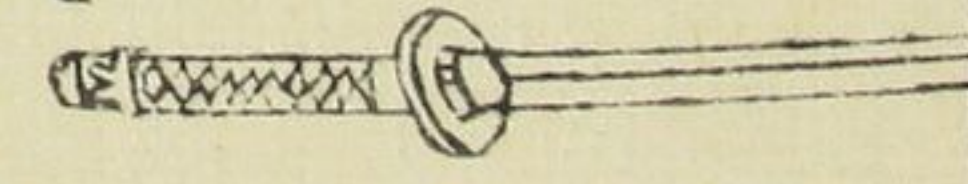
かきこ
たんき
このころ
うねの刺
半たぬお
うせいら
ちんとも
このころ
始

庚申塚

山神廟



わが
けり
とま
ふり
あま
ひさ
うた
あま
あま



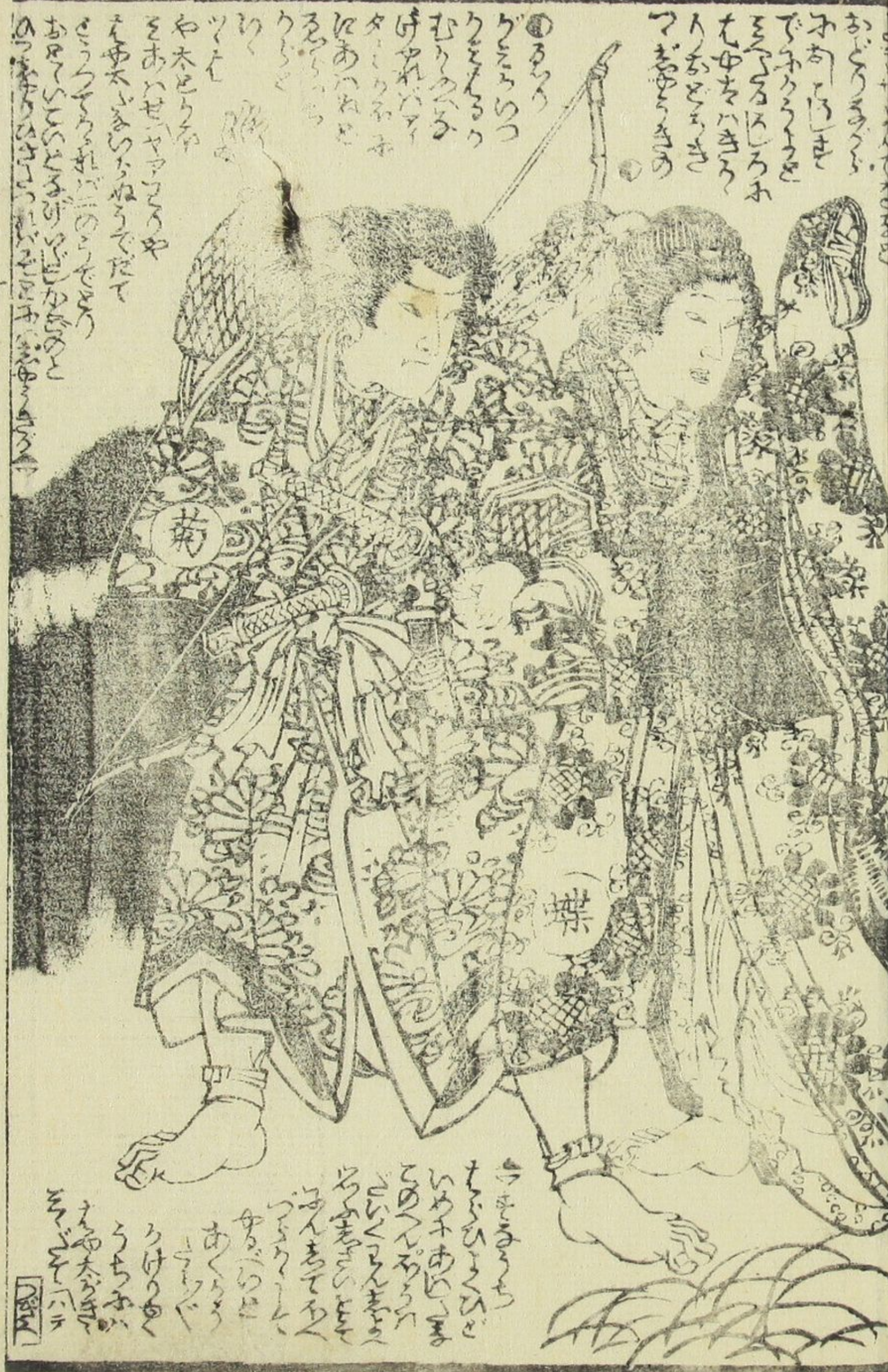


あつせけんてり
うせけんてり
こふせ
おとと

日めあてふま
りるまてむくま
づふすれこあ
びちり火花なま
つちあひせあ
こふりこふせ
ふたのあひせ
ふたのあひせ
ふたのあひせ

あつせけんてり
うせけんてり
こふせ
おとと
あつせけんてり
うせけんてり
こふせ
おとと
あつせけんてり
うせけんてり
こふせ
おとと





ちもいかに
 せせふの煉瓦石
 ようつとあけこのあけの
 ここのていさのここの
 りはのせせまのここの
 いかによとふまのここの
 ちもいかにこのいかに
 ここのせせふのあけの
 ちもいかにこのいかに

菊
 葉

ちもいかに
 せせふの煉瓦石
 ようつとあけこのあけの
 ここのていさのここの
 りはのせせまのここの
 いかによとふまのここの
 ちもいかにこのいかに
 ここのせせふのあけの
 ちもいかにこのいかに



ちもいかに
 せせふの煉瓦石
 ようつとあけこのあけの
 ここのていさのここの
 りはのせせまのここの
 いかによとふまのここの
 ちもいかにこのいかに
 ここのせせふのあけの
 ちもいかにこのいかに

庚申塚

十五
 十六

十五

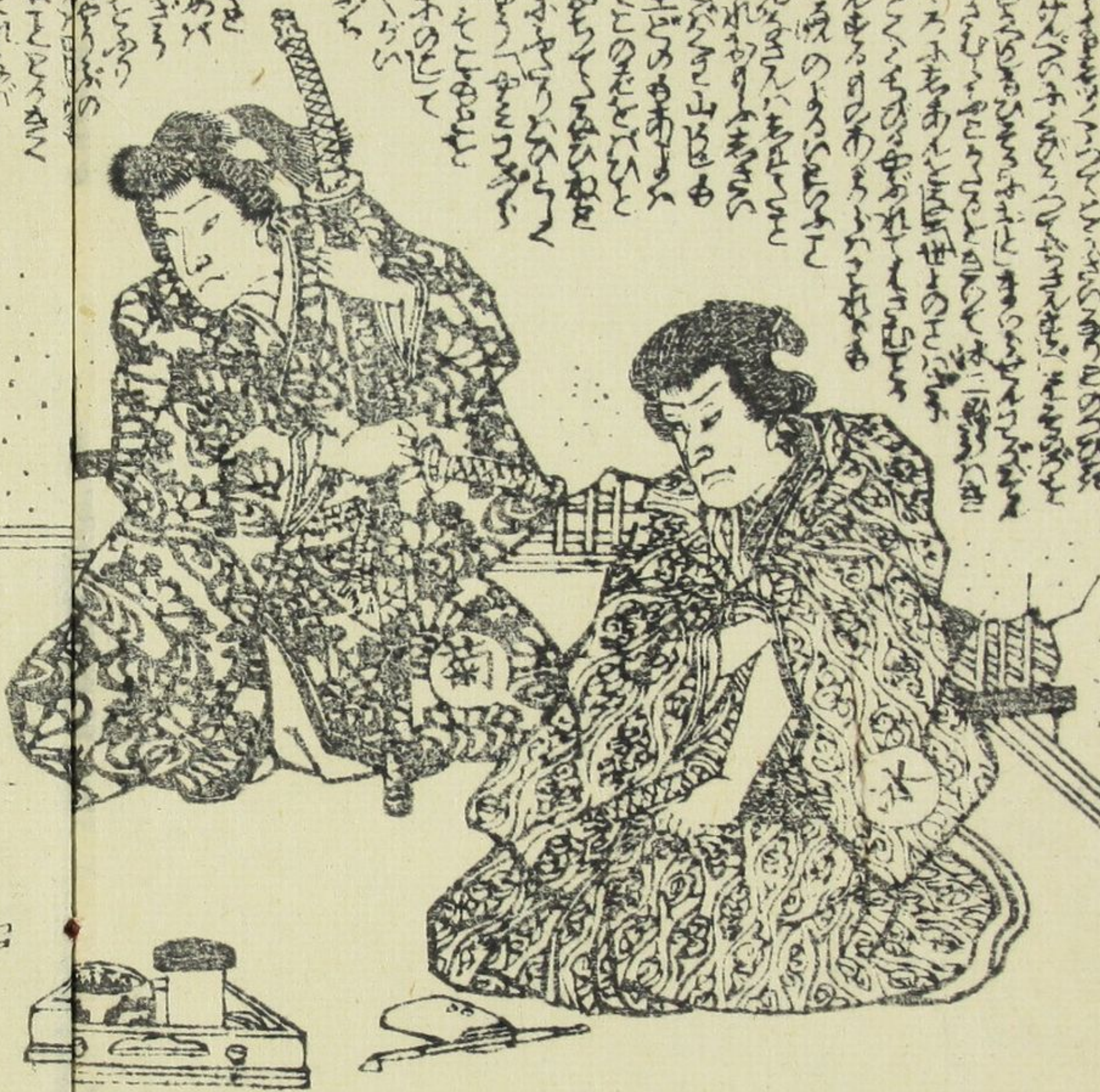


正徳の御代に於ては
 天下の事無き事あり
 其の由りては
 世宗の御代に於ては
 天下の事無き事あり
 其の由りては

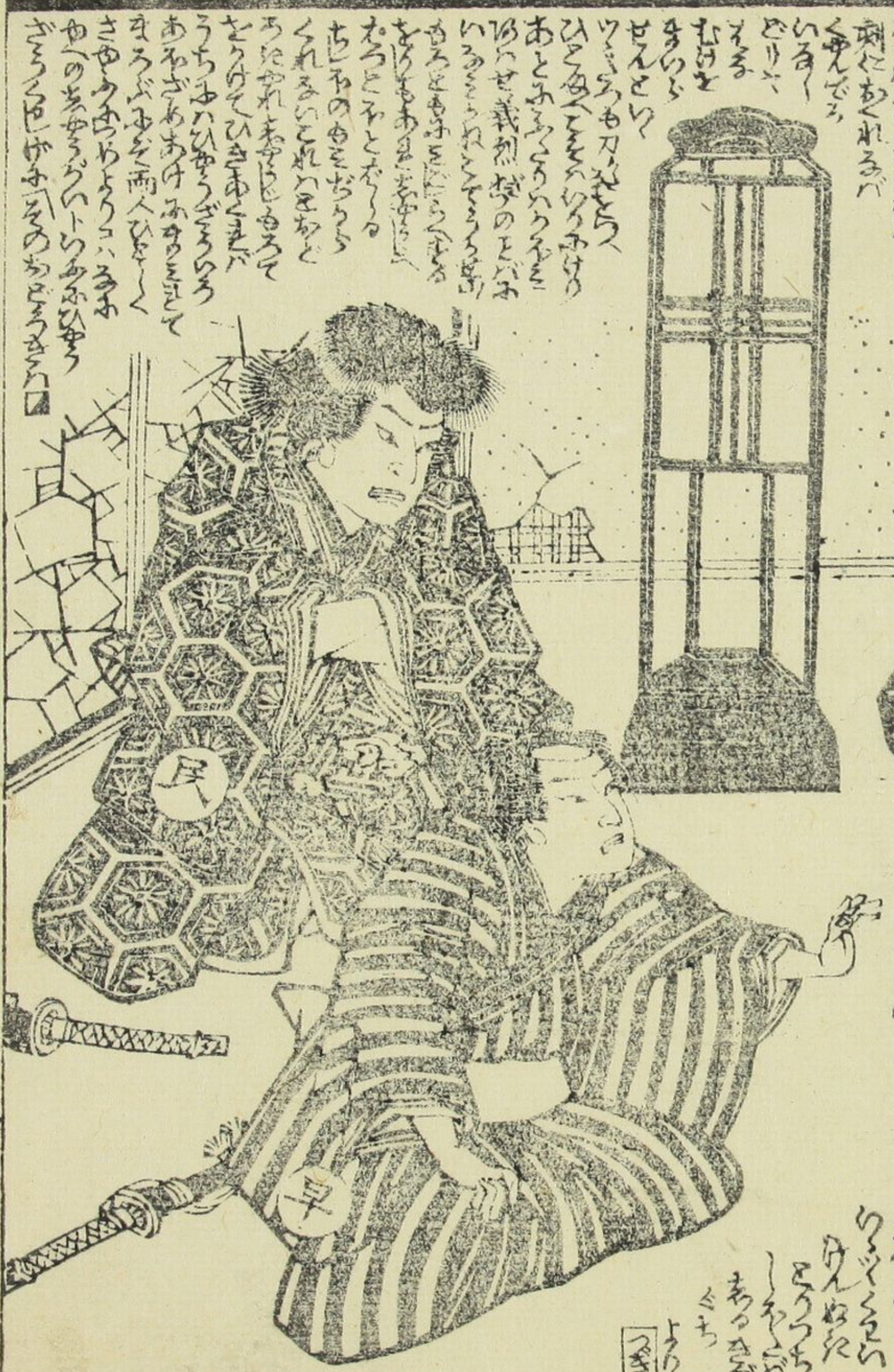
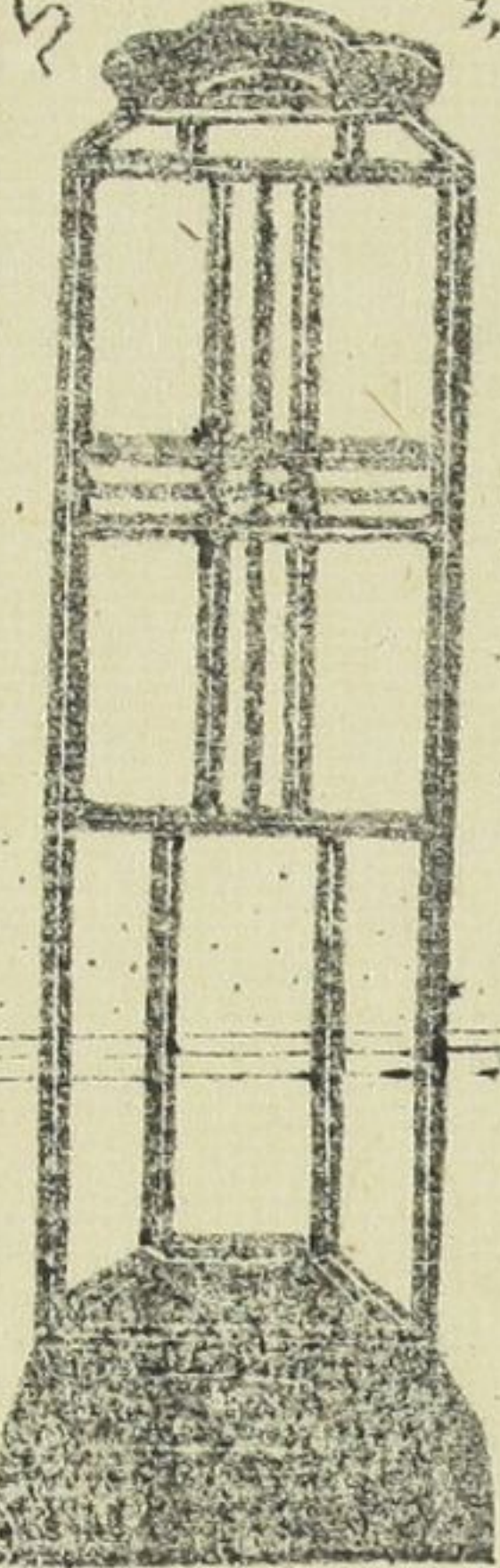
正徳の御代に於ては
 天下の事無き事あり
 其の由りては
 世宗の御代に於ては
 天下の事無き事あり
 其の由りては

正徳の御代に於ては
 天下の事無き事あり
 其の由りては
 世宗の御代に於ては
 天下の事無き事あり
 其の由りては

こゝに... (Vertical column of handwritten Japanese text on the upper right page, likely a dialogue or scene description.)



こゝに... (Vertical column of handwritten Japanese text on the lower right page, continuing the dialogue or scene description.)



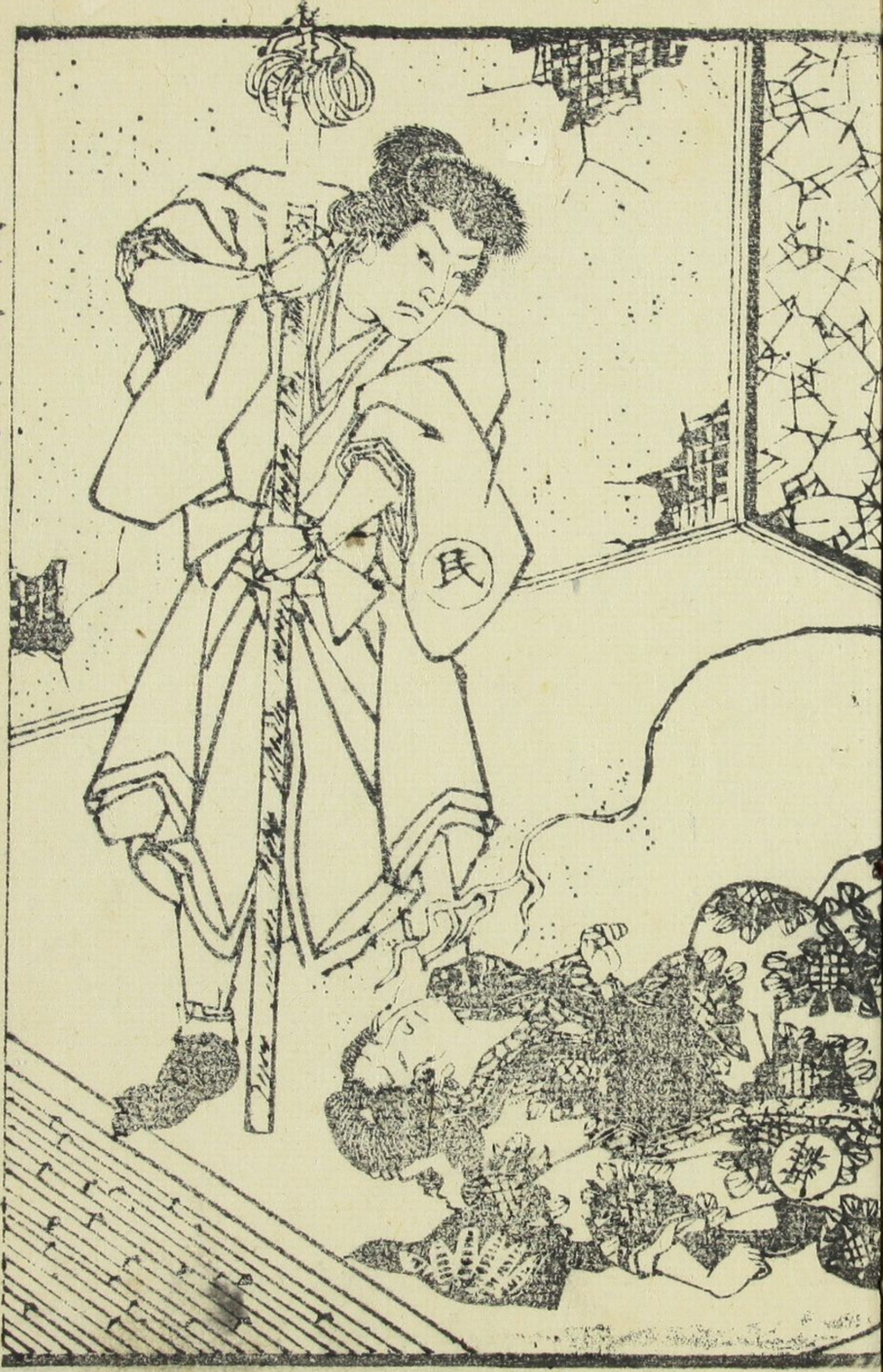
こゝに... (Vertical column of handwritten Japanese text on the upper left page, likely a dialogue or scene description.)

こゝに... (Horizontal line of handwritten Japanese text at the bottom of the left page.)

〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆



〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆
 〆〆〆〆〆〆〆〆



有人稿

豐國画綾彦綾



此の人の名は豊國と云ふなり
其の画は綾彦と云ふなり
其の綾は彦と云ふなり
其の彦は綾と云ふなり
其の綾彦は豊國と云ふなり

本地綿繪團扇門屋

厚化粧萬年嶋田
升編春水作
大尾國貞画

室町源氏胡蝶卷
三編種彦作
大尾國貞画

鼠祠通夜譚
十編種彦作
大尾國貞画

童謡妙々車
三編種彦作
大尾國貞画

薄倂幻日記
三編春水作
大尾國貞画

新島九尾傳
升編春水作
大尾國貞画

筆海四國聞書
十五編種彦作
大尾國貞画

明鴉墨画処禰襦
升編種彦作
大尾國貞画

花封蒼玉章
十編種彦作
大尾國貞画

七女引葛飾譚
十五種彦作
大尾國貞画

京橋區南橋馬町壹丁目二番地

出版人

林

吉蔵





有人
 豊平
 胡女
 巻
 三
 四
 五



小森喜台